

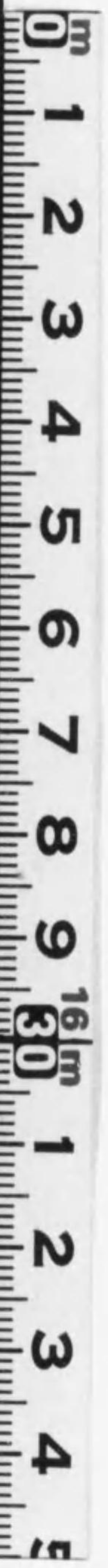
海事關係統制法規集

社団法人日本海運集會所編纂

特 263

286

壹月現行



始



特

女

286

本

壹月現行

海事關係統制法規集

社団法人 日本海運集會所 編纂

特263
286



目次

海運組合法	一
海運組合法施行令	一六
海運組合法施行規則	三三
造船事業法	三三
造船事業法施行令	五二
造船事業法施行規則	六五
船舶建造融資補給及損失補償法	九一
船舶建造融資補給及損失補償法施行令	九五
船舶建造融資補給及損失補償法施行規則	九七
臨時船舶管理法	一〇〇
臨時船舶管理法施行規則	一〇五
船舶管理委員會官制	一一五



航路統制法	一八
航路統制法施行令	一一八
航路統制法施行規則	一三一
航路統制委員會官制	一三五
船舶輸入許可規則	一三七
國家總動員法	一三九
價格等統制令	一四六
價格等統制令施行規則	一五八
臨時資金調整法	一七三
臨時資金調整法施行令	一八三
臨時資金調整法施行細則	一九〇
外國爲替管理法	二二二
外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件	二二七
外國爲替管理法ニ基ク臨時措置ニ關スル命令ノ件	二四九

海運組合法 (昭和十四年四月四日法律第六十九號)

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

- 一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業
 - 二 船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)ヲ爲ス事業
 - 三 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)若ハ賣買ニ關スル仲立業
- 前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運組合ヲ設立スルコトヲ得

海運組合ハ法人トス

第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主

タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行コトヲ得

- 一 組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
- 二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
- 三 組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋
- 四 組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定
- 五 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ

設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル海運組合成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滯ナク組合員總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱

- 三 事務所ノ所在地
 - 四 組合員タル資格ニ關スル規定
 - 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
 - 六 役員ニ關スル規定
 - 七 事業ノ執行ニ關スル規定
 - 八 會議ニ關スル規定
 - 九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定
 - 十 會計及財産ニ關スル規定
 - 十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由
- 第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ
- 理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
- 理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
- 監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

- 理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ
- 組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
- 理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
- 第十七條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ
- 一 定款ノ變更
 - 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
 - 三 業務報告及收支決算ノ承認
 - 四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更
 - 五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退

六 解散

前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及ビ組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 海運組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ノ取消
- 二 役員ノ解任
- 三 事業ノ停止
- 四 解散

第二十五條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 破産
- 四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ法人トス

第二十七條 海運組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依ル海運組合聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十條 海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條 第二十二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

海運業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條 前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收ス

ルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追懲ス
本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交附シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ
二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五
百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命令又
ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事
項ヲ記載セザルトキ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反
シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付
之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録稅法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ「海運組合、海運組合
聯合會」ヲ、「又ハ重要肥料業統制法」ノ上ニ「海運組合法」ヲ加フ

海運組合法施行期日ニ關スル件

(昭和十四年十二月十九日
勅令第八百四十四號)

海運組合法ハ昭和十四年十二月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

海運組合法施行令

(昭和十四年十二月十九日)
勅令第八百四十五號

第一條 海運組合法第一條第一項ノ船舶ニハ左ニ掲グル船舶ヲ包含セズ

一 専ラ湖川ヲ航行スル船舶

二 總噸數五噸未滿ノ船舶及専ラ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟但シ物ノ運送ニ使用スル舢舨船及其ノ曳船ヲ除ク

第二條 海運組合ハ遞信大臣ノ定ムル海運業ノ種類ニ從ヒ遞信大臣ノ定ムル地區毎ニ之ヲ設立スベキモノトシ同一種類ノ海運業ニ從事シ同一地區内ニ其ノ海運業ノ據點ヲ有スル者ヲ以テ各組合ノ組合員タルベキ者トス
遞信大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ定ムル海運業ノ種類及地區ニ拘ラズ特定ノ海運業者ニ特定ノ海運組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有セシムルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ登記スベキ事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於

テハ三週間以内ニ之ヲ登記スルコトヲ要ス

本令ニ依リ登記スベキ事項ニシテ遞信大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第四條 海運組合成立シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコ

トヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一 目的

二 名稱

三 組合員タル資格

四 事務所

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

七 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 海運組合ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第六條 海運組合ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以内ニ第四條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第四條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ主タル事務所又ハ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第七條 海運組合ノ清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 海運組合及海運組合聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ海運組合登記簿及海運組合聯合會登記簿ヲ備フ

第九條 海運組合ノ設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
前項ノ登記ノ申請書ニハ第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外定款、創立總會ノ決議録及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

海運組合法第十條第二項ノ規定ニ依ル遞信大臣ノ處分ニ因リ組合ノ設立アリタル場合ニ於テハ第一項ノ登記ノ申請書ニハ定款、定款ガ遞信大臣ノ處分ニ因リ作成セラレタルコトヲ證スル書面及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコト

ヲ要ス

第十條 海運組合ノ事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面及申請人中ニ理事ノ職務ヲ行フ監事又ハ假理事アル場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 海運組合ガ海運組合法第二十五條第一號又ハ第二號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

海運組合ガ海運組合法第二十五條第四號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ逕信大臣ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第十二條 海運組合ノ清算了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第十三條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十四條 海運組合聯合會ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ逕信大臣ノ定ムル海運業ノ種類別ニ之ヲ設立スベキモノトシ其ノ種類ヲ同ジクスル海運組合又ハ海運組合聯合會ヲ以テ各海運組合聯合會ノ會員タルベキ者トス

逕信大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ特定ノ海運組合又ハ海運組合聯合會ニ特定ノ海運組合聯合會ノ會員タルベキ資格ヲ有セシムルコトヲ得

第十五條 第四條乃至第七條、第九條乃至第十二條ノ規定ハ海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第十六條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第五十一條第一項、第六十七條、第七十三條及第七十六條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條乃至第三十七條ノ二及第二百二十五條第一項（第四百十一條及第四百七十七條ヲ準用スル部分ヲ除ク）ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付適用

アルモノトシ民法第七十四條及第七十五條並ニ非訟事件手續法第一百五十條ノ二ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第十七條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事本令ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五百圓以下ノ科料ニ處ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ清算人ヲ五百圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 本令ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 三 裁判所又ハ其ノ選任シタル者ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ
- 四 本令ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 五 本令ニ定ムル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

附 則

本令ハ海運組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海運組合法施行規則

(昭和十四年十二月二十日
逓信省令第六十五號)

第一條 海運組合(以下組合ト稱ス)ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

一 目的

二 組合員タル資格

三 事業計畫概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第二條 海運組合法第六條第二項ノ規定ニ依ル創立總會開催ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ組合員タル資格ヲ有スル者及設立同意者ノ數ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第三條 海運組合法第六條第一項ノ規定ニ依ル三分ノ二以上ノ同意アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四條 海運組合法第九條第一項ノ規定ニ依ル處分ハ逡信大臣組合ノ設立ヲ命ズル旨、組合員タル資格及設立ノ認可ヲ申請スベキ期限ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ逡信大臣ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ設立委員ヲ命ジ且其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ設立委員ノ任命アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第五條 組合ノ發起人創立總會ヲ招集スルニハ設立同意者ニ對シ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ、設立委員創立總會ヲ招集スルニハ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ會議ノ目的タル事項、日時及場所竝ニ前條第一項ノ告示ノ内容タル

事項ヲ少クトモ二週間前ニ通知スベシ

第六條 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第七條 創立總會終結シタルトキハ發起人又ハ設立委員ハ遲滯ナク組合ノ設立認可申請書ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面（設立委員ノ申請スル場合ヲ除ク）、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書竝ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 事業計畫

二 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三 理事及監事ノ氏名及住所

四 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ノ分賦收入方法

第八條 逡信大臣組合ノ設立ヲ認可シタルトキ又ハ海運組合法第十條第二項ノ規定ニ依リ定款作成ノ處分ヲ爲シタルトキハ組合ノ名稱及認可又ハ處分ノ年月日

ヲ告示ス

第九條 海運組合法第三條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ左ノ書面ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 組合員ト爲サントスル者ノ氏名及住所（組合員ト爲サントスル者法人ナルトキハ名稱、本店又ハ主タル事務所、定款竝ニ役員ノ氏名及住所）ヲ記載シタル書面

二 組合員ト爲サントスル者ノ事業概要ヲ記載シタル書面

三 組合員ト爲スコトニ付條件ヲ附スルトキハ其ノ條件ヲ記載シタル書面

第十條 海運組合法第三條第二項ノ規定ニ依リ組合員ト爲リタル者ノ脱退アリタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ツベシ

第十一條 海運組合法第十四條ノ規定ニ依ル處分ハ逕信大臣海運業者ヲシテ組合ノ組合員タラシムル旨ヲ當該海運業者ニ告知シ又ハ組合員タルベキ者ノ資格及組合ノ組合員タラシムル旨ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第十二條 組合理事又ハ監事ノ選任ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載

シタル申請書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 理事又ハ監事ノ氏名及住所

二 選任ノ方法

理事又ハ監事が組合員タラザル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第一項ノ申請書ニハ當該理事又ハ監事ノ履歷書及選任ガ總會又ハ役員會ノ決議ニ依ルトキハ其ノ決議録ノ謄本ヲ添附スベシ

第十三條 組合理事又ハ監事ノ解任ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 理事及監事ノ氏名及住所

二 解任ノ事由

前項ノ申請書ニハ解任ガ總會又ハ役員會ノ決議ニ依ルトキハ其ノ決議録ノ謄本

ヲ添附スベシ

第十四條 海運組合法第十六條第九項ノ規定ニ依ル役員ヲ置キタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第十五條 海運組合法第二十條第一項ノ規程ノ制定又ハ變更(廢止ヲ含ム)ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第十六條 海運組合法第二十條第二項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ規程ノ變更ヲ命ゼラレタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ變更ノ内容ヲ組合員ニ通知スベシ

第十七條 海運組合法第二十二條ノ規定ニ依ル處分ハ逕信大臣組合ノ統制ニ從フベキ者ニ對シ組合ノ統制ニ從フベキ旨及從フベキ事項ヲ告知シ又ハ組合ノ統制ニ從フベキ者ノ範圍、組合ノ統制ニ從フベキ旨及從フベキ事項ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第十八條 組合ハ毎年四月一日現在ニ於ケル左ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ同月

末日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ

一 組合員ノ氏名及住所(組合員法人ナルトキハ名稱、本店又ハ主タル事務所並ニ代表者ノ氏名及住所)

二 組合員ノ事業ノ據點タル地

三 組合員ノ所有船舶及運航船舶ノ隻數及總噸數

第十九條 組合ノ定款變更ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第二十條 組合ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ定メタルトキハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第二十一條 組合ハ業務報告(財産目錄及貸借對照表ヲ含ム)及收支決算ニ付總會ノ承認アリタルトキハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第二十二條 組合ノ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタ

ル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、殘餘財産アル場合ニ於ケル處分方法ヲ記載シタル書面竝ニ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十三條 海運組合聯合會(以下聯合會ト稱ス)ヲ設立セントスルトキ又ハ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ會員タルベキ各組合及聯合會ハ其ノ理事及監事中心ヨリ同數ノ創立委員ヲ選任スベシ

第二十四條 聯合會ノ會員タルベキ各組合及聯合會ニ於テ前條ノ創立委員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第二十五條 創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク聯合會ノ設立認可申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ定款、創立委員會ノ決議録ノ謄本、聯合會設立ニ關スル會員タルベキ各組合及聯合會ノ總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書竝ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 事業計畫

二 聯合會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三 理事及監事ノ氏名及住所

四 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ノ分賦收入方法

第二十六條 聯合會ニ加入シ又ハ脱退シタル者アリタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク其ノ名稱及主タル事務所ノ所在地ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第二十七條 第四條第一項、第六條、第八條、第十一條乃至第十七條及第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 本令ノ規定ニ依リ逓信大臣ニ提出スベキ書類ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外所轄逓信局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ海運組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法

(昭和十四年四月四日
法律第七十號)

第一條 本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造
又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船體、船舶用機關若ハ艙裝品又ハ其ノ部分品若ハ附
屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業ノ一部ト看做ス

第二條 造船事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會
社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ社員ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本
ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ
屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半
額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナル事ヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其
ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(以下造船會社ト稱ス)ハ政府ノ指定スル
期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スル事ヲ得
造船會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效
力ヲ失フ

第五條 造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスル
トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ
非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業
トシ同法ヲ適用ス

第七條 造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ毎決算期ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ

第八條 株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條 政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 政府ハ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶用材料ニ付亦同ジ

造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ

得ズ

第十三條 政府ハ造船會社ニ對シ其ノ製造セントスル船舶ニ付命令ノ定ムル推進性能試験ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

- 一 設備ノ新設、増設又ハ改良
 - 二 政府ノ指定スル船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕
 - 三 船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設
- 前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ

造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得
造船組合ハ法人トス

第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給並ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
- 二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
- 三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査

四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十條 造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ
組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成立ス

第二十一條 造船組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 地區

四 事務所ノ所在地

五 組合員タル資格ニ關スル規定

六 組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

七 役員ニ關スル規定

八 事業ノ執行ニ關スル規定

九 會議ニ關スル規定

十 組合員ノ出資及責任ニ關スル規定

十一 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十二 會社及財産ニ關スル規定

十三 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第二十二條 造船組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス
理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ
理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

- 第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
- 第二十三條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ
- 一 定款ノ變更
 - 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
 - 三 業務報告及收支決算ノ承認

- 四 第二十八條第一項ノ規程ノ制定及變更
 - 五 造船組合聯合會ノ設立、加入及脫退
 - 六 役員ノ選任及解任
 - 七 合併及解散
- 前項第一號、第四號、第六號及第七號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
- 第二十四條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
- 第二十五條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第二十三條第一項第一號、第二號、第四號、第五號及第七號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二十六條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十七條 組合員ノ責任ハ第十九條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

造船組合ハ定款ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第二十八條 造船組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ造船組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ造船組合ノ組合員ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジ又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第三十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 造船組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第三十三條 造船組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總會ノ決議

三 合併

四 破産

五 政府ノ解散命令

第三十四條 造船組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ他ノ造船組合聯合會又ハ造船組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ法人トス

第三十五條 造船組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立

委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 第十八條、第十九條、第二十條第三項、第二十一條乃至第三十三條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 造船組合及造船組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十九條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十條 本法ニ規定スルモノノ外造船組合及造船組合聯合會ニ關シ必要ナル事

項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ヲシテ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶、船舶用機關又ハ艤裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ造船事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第一項ノ規定ニ違反シ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタルトキ

二 第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ本邦ニ於テ製造セラレタルニ非ザル物ヲ使用シタルトキ

三 第十二條第二項ノ規定ニ違反シ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ船舶ニ使用シタルトキ

四 第十四條又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

五 第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ統制ニ從ハザルトキ

第四十五條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

二 第四十一條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第四十六條 造船事業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十三條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十七條 第四十三條乃至第四十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキ

ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ、賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第五十條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ同條ニ規定スル以外ノ目的ニ使用シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シ社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ本法ニ依ル政府ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第五十二條 第三十七條及第四十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第五十條乃至前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第三條中有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限り第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

登録稅法第十九條第七號中「貿易組合中央會」ノ下ニ「造船組合、造船組合聯合會」ヲ、「貿易組合法」ノ下ニ「造船事業法」ヲ加フ

造船事業法施行期日ニ關スル件

(昭和十四年十一月二十八日勅令第七百九十九號)

造船事業法ハ昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法施行令

(昭和十四年十一月二十八日勅令第八百號)

第一條 造船事業法第一條第一項ノ設備ハ長サ五十米以上ノ船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架トス

第二條 造船事業法第二條ノ許可ハ船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ事業別ニ之ヲ爲ス

第三條 造船事業法第七條ノ規定ニ依リ造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テアル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ガ當該設備ノ取得價額ノ六割ニ達スル迄毎決算期ノ利益金額ノ百分ノ十二以上ヲ積立ツベシ當該決算期ニ於テ設備ノ償却ニ充ツル爲經費ニ計上シタル金額ハ前項ノ利益金額計算上支出ニハ之ヲ算入セズ且前項ノ規定ニ依リ當該決算期ニ於テ積立ツベキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第四條 造船會社特別ノ事情ニ基キ前條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ遞信大臣ノ許可

ヲ受ケ前條ノ積立ツベキ金額ヲ減額スルコトヲ得

第五條 造船事業法第十五條第二項ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル損失ノ補償ヲ請求セントスル會社ハ其ノ損失ガ造船事業法第十五條第一項第一號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該設備ノ使用ヲ廢止シタル後又同條第一項第二號又ハ第三號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該命令事項ノ履行ヲ終リタル後之ヲ請求スベシ但シ逡信大臣ノ定ムル所ニ依リ每事業年度ノ終リタル後又ハ損失ノ生ジタル都度之ヲ請求スルコトヲ得

第六條 造船事業法第十五條第一項第一號ノ命令ニシテ特ニ緊急ヲ要スルモノ又ハ機密保持ノ爲必要アルモノニ付テハ造船事業委員會ノ議ニ付セザルコトヲ得

第七條 造船組合ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人又ハ設立同意者タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第八條 造船組合ノ理事及監事ハ組合員タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 造船組合ノ理事正當ノ理由ナクシテ造船事業法第三十九條ニ於テ準用スル民法第六十一條第二項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ逡信大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十條 造船組合ノ組合員ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス前項ノ代理人ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人又ハ組合員タルコトヲ要ス代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ提出スベシ

第十一條 造船組合ノ總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ

違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得商法第六十三條第二項、第三項及第六十三條ノ四ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 造船組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第十三條 第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十條第二項（同法第四十二條、第五十八條第三項及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）及第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 造船組合ノ清算人ハ民法第七十九條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 造船組合聯合會ノ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス第七條第二項乃至第四項ノ規定ハ創立

委員ニ付之ヲ準用ス

第十六條 造船組合聯合會ノ理事及監事ハ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ其ノ聯合會ニ屬スベキ組合又ハ聯合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 本令ニ依リ登記スベキ事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ之ヲ登記スルコトヲ要ス本令ニ依リ登記スベキ事項ニシテ遞信大臣又ハ遞信大臣及商工大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十八條 造船組合ハ組合員ノ出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

- 一 造船事業法第二十一條第一號乃至第三號及第十三號ニ掲グル事項
 - 二 事務所
 - 三 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
 - 四 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
 - 五 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ各組員ノ名稱及本店竝ニ各組員ガ其ノ出資ノ外組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔スル金額(保證金額)
 - 六 成立ノ年月日
 - 七 理事及監事ノ氏名及住所
- 前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
此ノ場合ニ於テ前項第四號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ四週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ五週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條 造船組合ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス
主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十條 造船組合ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ主タル事務所又ハ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十一條 造船組合及造船組合聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁

判所ヲ以テ管轄登記所トス各登記所ニ造船組合登記簿及造船組合聯合會登記簿ヲ備フ

第二十二條 造船組合ノ設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス前項ノ登記ノ申請書ニハ定款、創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス合併ニ因ル設立ノ登記ノ申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本令ニ依リ公告及催告ヲ爲シタルコト竝ニ異議ヲ述ベタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 造船組合ノ事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス前項ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面及申

請人中ニ理事ノ職務ヲ行フ監事又ハ假理事アル場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス前條第三項ノ規定ハ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 造船組合ガ造船事業法第三十三條第一號又ハ第二號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リ、同條第三號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス前項ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及前項前段ノ場合ニ於テ理事ガ清算人タラザルトキハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス第二十二條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ニ付之ヲ準用ス造船組合ガ造船事業法第三十三條第五號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ逓信大臣ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十五條 造船組合ノ清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十六條 第九條乃至第十二條、第十四條、第十八條乃至第二十條及第二十二

條乃至前條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第六十七條、第七十三條、第七十六條及第七十八條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條乃至第三十七條ノ二及第二百二十五條第一項（第四百十一條及第四百七十七條ヲ準用スル部分ヲ除ク）ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付適用アルモノトシ民法第七十條第一項、第七十二條、第七十四條及第七十五條、非訟事件手續法第五百十條ノ二、第七十八條及第九十五條ノ二並ニ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條ノ二、第四十條乃至第四十二條、第四十四條第一項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十三條第一項、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項及第四百四條ノ規

定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 造船事業法第九條乃至第四十一條、第四十四條第二號乃至第五號、第四十五條乃至第四十九條及第五十一條乃至第五十三條並ニ本令第五條乃至第十六條、第十八條乃至第二十條、第二十二條及第三十三條ノ規定ハ長サ十五米以上ノ船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架ヲ備フル者ノ營ム船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業及其ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ從トシテ爲ス船體、船舶用機關若ハ艙裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ノ事業ニシテ造船事業法第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第二十九條 造船事業法第九條、第十條、第十四條乃至第四十條、第四十一條第一項、第四十四條第二號乃至第五號、第四十五條乃至第四十九條及第五十一條乃至五十三條並ニ本令第五條乃至第十六條、第十八條乃至第二十條、第二十一條第一項、第二十二條乃至第二十七條、第三十二條及第三十三條ノ規定ハ命

令ヲ以テ定ムル船舶用機關又ハ艤裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ造船事業法第一條ノ造船事業及前條ノ事業ニ屬セザル營業ニ付之ヲ準用ス

第三十條 前二條ニ於テ準用スル造船事業法第十七條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ造船事業法第一條造船事業ニ屬セザル船舶、船舶用機關又ハ艤裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ヲ營ム者ノ設立スル組合又ハ組合聯合會ノ登記ハ造船組合登記簿又ハ造船組合聯合會登記簿ニ之ヲ爲ス

第三十一條 造船事業法第九條、第十條、第十四條乃至第十六條、第二十條、第二十二條、第二十三條、第二十八條乃至第三十三條、第三十五條、第四十一條及第五十一條中政府トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ逓信大臣及商工大臣トシ同法第十二條及第十三條（第二十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）中政府トアルハ漁船、漁船用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付テハ逓信大臣及農林大臣トス第五條、第九條及第二十四條中逓信大臣トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ逓信大臣及商工大臣トス

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本令ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本令ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ若ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ
- 四 本令ニ違反シ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ
- 五 本令ニ違反シ組合又ハ聯合會ガ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
- 六 本令ニ違反シ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合若ハ聯合會ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ
- 七 本令ニ違反シ剩餘金ヲ處分シタルトキ

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 裁判所又ハ其ノ選任シタル者ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ
- 三 本令ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 四 本令ニ違反シ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
- 五 本令ニ定ムル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 六 前條第一號及第四號乃至第六號ノ一ニ該當スルトキ

附 則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法施行規則

(昭和十四年十一月二十九日)
(逓信省令第六十二號)

第一條 造船事業法第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 工場ノ名稱及位置
 - 二 造船事業法施行令第二條ノ規定ニ依ル事業ノ區別(造船事業法第一條第二項ノ事業ヲ營マントスルトキハ其ノ旨ヲ附記スベシ)
 - 三 設備ノ概要(圖面ヲ添附スベシ)
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 工事ノ著手及完成ノ豫定期期並ニ事業開始ノ豫定期期ヲ記載シタル書面
 - 二 工事費豫算書
 - 三 事業資金ノ總額及其ノ調達方法ヲ記載シタル書面
 - 四 事業收支目論見書

五 技術者及職工ノ雇傭及養成ノ計畫ヲ記載シタル書面

六 會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、造船事業經營ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本、登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿

七 造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

八 造船事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載シタル書面

第二條 造船事業法第二條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者其ノ設備ノ工事ニ著手シタルトキ及其ノ設備ヲ完成シタルトキハ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ヅベシ其ノ事業ヲ開始シタルトキ亦同ジ

第三條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業讓渡ノ許可ヲ受ケントスルト

キハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一 讓渡スベキ事業ノ範圍

二 讓渡ノ價格及時期

三 讓渡ヲ必要トスル事由

四 讓受ケントスル者ガ造船會社ニ非ザル者ナルトキハ讓受後ニ於ケル第一條第一項各號ニ掲グル事項

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ

一 讓渡契約書ノ謄本

二 讓渡價格算出ノ基礎ヲ明ニスル書面

三 讓渡ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ決議録ノ謄本又ハ之ニ代リ得ベキ書面

四 讓受ニ要スル資金ノ調達方法ヲ記載シタル書面及讓受後ニ於ケル事業收支

目論見書

五 讓受ケントスル者會社發起人ナルトキハ定款、造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿並ニ造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

第四條 造船事業ノ讓渡終了シタルトキハ當事者連署ノ上遲滯ナク其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第五條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ廢止又ハ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、廢止又ハ休止スベキ事業ノ範圍、廢止又ハ休止ノ時期及休止ノ場合ニ在リテハ其ノ期間ヲ記載シタル申請書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ但シ一月未滿ノ事業ノ休止ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ヅルヲ以テ足ル
造船會社休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第六條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

- 一 合併ノ方法及條件
- 二 合併ノ時期
- 三 合併ヲ必要トスル事由
- 四 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一項各號ニ掲グル事項
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
 - 一 合併契約書ノ謄本
 - 二 合併條件決定ノ基礎ヲ明ニスル書面
 - 三 合併ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本
 - 四 合併後ニ存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款及合併後ニ於

ケル事業收支目論見書

五 合併ノ當事者タル會社ノ商法第七十八條第一項又ハ有限會社法第六十三條ニ於テ準用スル昭和十三年法律第七十二號商法第九十九條ノ規定ニ依リ作成シタル財産目録及貸借對照表

六 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ其ノ定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿竝ニ造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

第七條 造船會社ノ合併終了シタルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届書ニハ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ

第八條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ解散ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決

議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第九條 造船事業法施行令第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及減額セントスル額ヲ記載シタル申請書ニ次ノ決算期以後ニ於ケル償却目論見書ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十條 造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

- 一 社債ノ總額
 - 二 社債募集ノ時期及條件
 - 三 商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債募集ヲ必要トスル事由
- 前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行セントスルモノナルトキハ申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
- 一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

二 社債ノ利率ノ最高限度

前二項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書面
(工事費計算書ヲ添附スベシ)

二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本

三 會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本

四 最終ノ貸借對照表

五 前二社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額ノ登記抄本

六 信託證書案

七 工場抵當法ニ依リ抵當ト爲スベキ物件ノ目錄

八 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ表示シタル書面

第一項ノ場合ニ於テ造船事業法第八條第四項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セスシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ申請書ニ第一項各號ノ事項ノ外擔保ヲ

供セザル特別ノ事由ヲ詳記シ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類及社債募集ノ方法ニ關スル説明書ヲ添附スベシ

第十一條 造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ツベシ

第十二條 逕信大臣ハ造船事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ヲ交付セントスルトキハ獎勵スベキ物ノ名稱獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格、獎勵金額其ノ他必要ナル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ第十三條 前條ノ規定ニ依ル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 製造セントスル工場ノ名稱

二 製造セントスル物ノ名稱、種類、型式、性能及數量(設計圖又ハ仕様書ヲ添附スベシ)

三 設計者又ハ考案者及製造擔當者ノ氏名

- 四 製造ノ目的及研究ノ沿革
- 五 製造ノ開始及終了見込年月日
- 六 製造費豫算
- 七 製造ノ爲ニ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ概要及
工事費豫算

前項ノ申請書（設計圖又ハ仕様書ヲ含ム）ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ逕信大臣ノ承認ヲ受クベシ

第十四條 前條ノ獎勵金ハ當該製造ノ完了シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者當該物品ノ製造ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ逕信大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 二 逕信大臣ノ承認ヲ受ケズシテ設計又ハ仕様ヲ變更シタルトキ
- 三 製造ヲ中止シタルトキ
- 四 製造費ノ支出額ガ豫算額ニ比シ著シク寡少ナルトキ
- 五 不正ノ行爲アリタルトキ

第十六條 造船會社船體、船舶用機關若ハ艙裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ此等ノ物ニハ本邦ニ於テ製造セラノタル物ヲ使用スベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逕信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 外國ニ於テ新規ニ發明若ハ考案セラレタル物又ハ本邦ニ於テ製造困難ナル特殊ノ物ヲ使用セントスル場合
- 二 其ノ他特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逕信大臣

ニ提出スベシ

第十七條 遞信大臣ハ造船事業法第十一條ノ規定ニ依リ助成金ヲ交付セントスル

トキハ助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格、助成金額其ノ他助成金交付ニ關スル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十八條 遞信大臣ハ造船事業法第十二條第一項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス告示シタル規格ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十九條 造船會社ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ前條ノ規格ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得

一 船舶用トシテ適否ヲ實地ニ試験スル目的ヲ以テ製造シ又ハ船舶ニ使用スル場合

二 規格ニ適合スル物ノ取得困難ニシテ船舶ノ製造又ハ修繕ニ支障ヲ生ズル虞アル場合

三 新規ニ發明若ハ考案セラレタルモノヲ製造シ又ハ之ヲ船舶ニ使用スル場合
四 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合
前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第二十條 造船會社長サ八十米以上ノ船舶ニシテ推進機關ヲ備フルモノヲ製造セントスルトキハ製造著手前其ノ船型及推進器ノ選定ニ付昭和二年遞信省令第五十六號船型試験規則ニ依リ水槽試験ヲ受クベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 遞信省管船局船舶試験所以外ノ試験水槽ニ依リ水槽試験ヲ受ケントスル場合

二 既ニ水槽試験ヲ受ケタル船舶ト同形ノ船舶ヲ製造セントスル場合

三 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣

ニ提出スベシ

第二十一條 漁船、漁船用機關若ハ艀裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ規格及漁船ノ推進性能試験ニ關シテハ前三條ノ規定ニ拘ラズ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十二條 造船會社ハ毎年二月末日迄ニ前年ノ營業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ記載シタル報告書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第二十三條 造船會社ハ營業年度毎ニ株主總會又ハ社員總會終結後遲滯ナク財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類、株主名簿又ハ社員名簿及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

- 一 當該營業年度ニ於テ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テタル金額又ハ經費ニ計上シタル金額

- 二 其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テアル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ト前號ノ金額トノ合計額竝ニ其ノ合計額ト當該設備ノ取得價額トノ比率

第二十四條 造船會社ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

- 一 定款ヲ變更シタルトキ
- 二 取締役又ハ監査役ニ變更アリタルトキ
- 三 株金又ハ出資金ノ拂込アリタルトキ
- 四 社債ヲ發行シ又ハ長期借入金ヲ爲シタルトキ
- 五 社債又ハ長期借入金ヲ償還シタルトキ
- 六 會社ノ資本系統ニ著シキ變更アリタルトキ
- 七 兼營事業ヲ開始シ、擴張シ、縮少シ又ハ廢止シタルトキ

第二十五條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

- 一 工場ノ名稱及位置
- 二 船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ區別

- 三 設備ノ概要（圖面ヲ添附スベシ）
 - 四 事業開始ノ豫定期
 - 五 事業資金ノ總額及其ノ調達方法
 - 六 事業收支目論見
 - 七 常時使用スベキ職工數
- 前項ノ届書ニハ會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益金ノ處分ニ關スル書類ヲ添附スベシ

第二十六條 前條ノ届書ヲ提出シタル者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第二十七條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者第二十五條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第二十八條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ該事業ヲ營ム會社解散シタルトキ亦同ジ

第二十九條 第四條、第七條第一項、第十二條乃至第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十四條及第三十條乃至第五十四條ノ規定ハ造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ニ付之ヲ準用ス

第三十條 造船組合（以下組合ト稱ス）ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ會社發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル會社ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

- 一 目的
- 二 地區
- 三 組合員タル資格
- 四 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

- 五 造船事業法第二十七條第二項ノ組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法
- 六 經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
- 七 事業計畫概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第三十一條 造船事業法第二十條第二項ノ規定ニ依ル創立總會開催ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ組合員タル資格ヲ有スル會社及設立同意者タル會社ノ數ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第三十二條 造船事業法第二十條第一項ノ規定ニ依ル三分ノ二以上ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三十三條 組合ノ發起人創立總會ヲ招集スルニハ設立同意者タル會社ニ對シ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ通知スベシ

第三十四條 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第三十五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク組合ノ設立認可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書竝ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

- 一 事業計畫
- 二 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 引受アリタル出資ノ總口數
- 四 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額
- 五 理事及監事ノ氏名及住所

六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ分賦收入方法

第三十六條 組合ノ役員選任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書（造船事業法施行令第八條第二項ノ規定ニ依ル理事又ハ監事選任ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載スベシ）ニ役員ノ履歷書及總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第三十七條 組合ノ役員解任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第三十八條 組合ノ定款變更ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

定款ノ變更ガ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少又ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲グル書面ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添附

スベシ定款ノ變更ガ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條第二項又ハ第六十八條第一項ノ場合ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ第一項ニ掲グル書面ノ外總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第三十九條 經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ逕信大臣ニ届出ツベシ

第四十條 組合ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十六條ノ規定ニ依ル準備金ノ積立ヲ爲シ尙剩餘金アルトキハ之ヲ資産又ハ翌事業年度收入ニ繰入ルベシ

第四十一條 組合ハ業務報告（財産目録及貸借對照表ヲ含ム）及收支決算ニ付總會ノ承認アリタルトキハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ逕信大臣ニ届出ツベシ

第四十二條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加

スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スベキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同ジ

第四十三條 組合員組合ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メストスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫告ヲ爲スベシ
前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條 組合ノ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、殘餘財産アル場合ニ於ケル處分方法ヲ記載シタル書面竝ニ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第四十五條 組合ノ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第四十六條 造船事業法第二十八條第一項ノ規定ノ制定又ハ變更（廢止ヲ含ム）ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第四十七條 造船事業法第三十條ノ規定ニ依ル處分ハ逕信大臣造船會社ヲシテ組合ノ組合員タラシムル旨ヲ當該造船會社ニ告知シ又ハ組合、組合員タルベキ會社ノ資格及組合ノ組合員タラシムル旨ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第四十八條 組合造船事業法第十八條第一項第四號ニ掲グル事業ヲ行ハントスルトキハ豫メ之ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滯ナク之ヲ逕信大臣ニ届出ヅベシ

一 逕信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外定款ノ施行ニ關スル規程ヲ定メ又ハ改廢シタルトキ

二 造船事業法第二十八條第一項ノ規程ニ基キ製造又ハ販賣ノ數量又ハ價格其ノ他ノ事項ニ付決定ヲ爲シタルトキ

三 事務所、理事、監事、清算人又ハ定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散ノ登記ヲ爲シタルトキ

四 加入金又ハ増口金ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキ

第五十條 造船組合聯合會（以下聯合會ト稱ス）ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ各組合及聯合會ハ其ノ理事及監事中ヨリ創立委員二名ヲ選任スベシ

第五十一條 聯合會ノ會員タルベキ各組合及聯合會ニ於テ前條ノ創立委員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第五十二條 創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク聯合會ノ設立認可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ前項ノ申請書ニハ定款、創立委員會ノ決議録ノ謄本、聯合會設立ニ關スル會員タルベキ各組合及聯合會ノ總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書竝ニ在ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 事業計畫

二 聯合會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三 引受アリタル出資ノ總口數

四 造船事業法第三十六條ニ於テ準用スル同法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額

五 理事及監事ノ氏名及住所

六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ所屬ノ組合及聯合會ニ分賦スル聯合會ニ在リテハ分賦收入方法

第五十三條 聯合會ニ加入シ又ハ脱退シタルモノアリタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク其ノ名稱及主タル事務所ノ所在地ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第五十四條 第三十四條及第三十六條乃至第四十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 本令ノ規定ニ依リ遞信大臣ニ提出スベキ書類ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外所轄遞信局長ヲ經由スベシ

附則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者ハ第一條第一項ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル届書ヲ、造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者ハ第二十五條第一號乃至第三號ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル届書ヲ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ遞信大臣ニ提出スベシ但シ第一條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

船舶建造融資補給及損失補償法

(昭和十四年四月四日
法律第七十一號)

第一條 政府ハ海運業ノ振興ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶建造資金ノ融通ヲ爲ス金融機關ニ對シ補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ契約ハ之ニ基キ支給スベキ補給金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 前條ノ契約ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ昭和十四年度以降十年間トス

第三條 第一條ノ船舶建造資金及金融機關ノ範圍、補給金支給ノ限度並ニ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ベキ者ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 政府ハ第一條ノ契約ヲ爲サントスルトキハ金融機關ヲシテ船舶建造資金ノ融通ニ付左ノ各號ニ依ラシムルコトヲ要ス

- 一 融通資金ノ償還方法ハ十五年以内ノ年賦償還ニ依ルコト但シ其ノ期間内ニ於テ二年以内ノ据置期間ヲ定メ得ルコト
 - 二 融通資金ニ依リテ建造セラルル船舶ニ第一順位ノ抵當權ヲ設定スルコト但シ船舶建造中ニ在リテハ之ニ代ヘテ一時他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シ得ルコト
 - 三 資金融通ノ限度ハ建造セラルル船舶ノ擔保價格ヲ超エザルコト但シ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ擔保不足分ニ付他ノ船舶其ノ他ノ物件ヲ擔保ト爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト
 - 四 船舶ノ擔保價格ハ當該船舶ノ價格ノ三分ノ二又ハ保險金額ノ五分ノ四ノ中其ノ低キモノニ依ルコト
 - 五 貸付利率ハ勅令ノ定ムル率ニ依ルコト
- 第五條 第一條ノ契約ニ基ク政府ノ損失補償ハ金融機關ガ融通ニ因リテ受ケタル損失ノ百分ノ七十トス

- 前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ政府之ヲ定ム
- 第一項ノ損失及其ノ額ハ船舶融資損失審査會之ヲ決定ス
- 船舶融資損失審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 金融機關ハ損失補償ヲ受ケタル後ト雖モ其ノ債權ヲ保有シ且之ヲ取立ツルコトヲ要ス
- 金融機關ハ前項ノ取立ニ依リテ得タル金額ヨリ債權行使ノ爲要シタル費用ヲ控除シ其ノ殘額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スベシ
- 第七條 第一條ノ契約ニ基キ政府ガ金融機關ニ對シテ支拂フベキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得
- 第八條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得
- 第九條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 金融機關ガ本法又ハ第一條ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ融通資金ノ全部若ハ一部ニ付補給ヲ爲サズ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補償ヲ爲サズ又ハ補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

船舶建造融資補給及損失補償法施行期日ニ關スル件

(昭和十四年十二月二十七日
勅令第八百九十四號)

船舶建造融資補給及損失補償法ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶建造融資補給及損失補償法施行令

(昭和十四年十二月二十七日
勅令第八百九十五號)

- 第一條 船舶建造融資補給及損失補償法第一條ノ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ベキ船舶ハ左ニ掲グル條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ特ニ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル船舶ニ在リテハ第二號及第三號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要セズ
- 一 内地ニ於テ建造セララルコト
 - 二 總噸數四千噸以上ナルコト
 - 三 鋼製貨物汽船又ハ旅客定員ガ船舶ノ長サヲメートルニテ表シタル數ノ二乗ノ百分ノ一以下ナル鋼製貨客汽船ナルコト
- 第二條 船舶建造融資補給及損失補償法第一條ノ金融機關ハ内地ニ本店又ハ主クル事務所ヲ有スル銀行、信託會社及保險會社トス
- 第三條 船舶建造融資補給及損失補償法第一條ノ補給金ハ融通資金ノ未償還額ニ

對シ年百分ノ一ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トシ銀行及信託會社ニ付テハ大藏大臣ニ、保險會社ニ付テハ商工大臣及大藏大臣ニ協議シテ逕信大臣之ヲ定ム但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ發行スル債券ニ依ル資金ヲ以テ貸付ニ充ツル場合ニ於テ該債券ノ發行者利廻ガ貸付利率ヲ超ユルトキハ其ノ超過スル率ニ百分ノ一ヲ加算シタル割合ニ相當スル金額ヲ限度トス

第四條 船舶建造融資補給及損失補償法第一條ノ船舶建造資金ノ融通ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依ル日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ル者トス

第五條 船舶建造融資補給及損失補償法第四條第五號ノ貸付利率ハ年三分七厘トス

附則

本令ハ船舶建造融資補給及損失補償法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶建造融資補給及損失補償法施行規則

(昭和十四年十二月二十八日
逕信省令第六十九號)

第一條 金融機關船舶建造融資補給及損失補償法第一條ノ契約(以下單ニ補給契約ト稱ス)ヲ爲サントスルトキハ逕信大臣ノ指定スル期日迄ニ當該年度ニ於テ融通ヲ爲サントスル資金ノ額ヲ記載シタル申請書ニ當該年度ニ於テ支給ヲ受ケントスル補給金ノ見込額及之ガ算出ノ明細ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第二條 逕信大臣補給契約ヲ爲シタルトキハ金融機關ノ名稱及所在地竝ニ當該金融機關ガ補給契約ニ依リ融通ヲ爲シ得ベキ資金ノ額ヲ告示ス

第三條 金融機關船舶建造融資補給及損失補償法第四條第三號但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 擔保不足分ニ付擔保ト爲サントスル物件ノ明細ヲ記載シタル書面

- 二 融通ヲ受ケントスル者ノ財産狀況調査書
- 三 融通ヲ受ケントスル者ノ營業狀況調査書

第四條 金融機關船舶建造融資補給及損失補償法施行令第一條但書ノ認可ヲ受ケ

ントスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

- 一 船舶件名書
- 二 建造セラルル船舶ノ就航スベキ航路又ハ區域ヲ記載シタル書面
前項ノ船舶件名書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 船舶ノ種類
- 二 機關ノ種類及其ノ數
- 三 計畫總噸數
- 四 船舶ノ長サ(メートルニテ表シタルモノ)
- 五 旅客定員
- 六 計畫馬力

- 七 計畫最強速力
- 八 起工豫定年月
- 九 竣工豫定年月
- 十 注文者ノ氏名又ハ其ノ名稱
- 十一 造船者ノ氏名又ハ其ノ名稱
- 十二 契約建造價格

附 則

本令ハ船舶建造融資補給及損失補償法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時船舶管理法

(昭和十二年九月十日)
法律第九十三號

第一條 本法ハ支那事變ニ關聯シ海上ニ於ケル一般交通運輸ノ調整ヲ圖ルヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ運航業者トハ帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ海上ニ於テ人又ハ物ヲ運送スル事業ヲ營ム者ヲ謂フ

第三條 日本船舶ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ日本船舶(關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ヲ含ム)ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ讓渡シ、貸渡シ(期間傭船ヲ含ム)、擔保ニ供シ又ハ引渡サントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

第四條 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ル者日本船舶(關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ヲ含ム)ニ非ザル船舶ヲ取得セントスルトキハ政府ノ許可ヲ取クベシ

シ但シ命令ヲ以テ定ムル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第五條 政府ハ運航業者ニ對シ外國諸港間ノ運送ヲ爲スコトヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第六條 政府ハ運航業者ニ對シ航路、就航區域又ハ運送スベキ人若ハ物ヲ指定シテ航海ヲ命ズルコトヲ得

第七條 政府ハ運航業者、船舶所有者又ハ造船業者ニ對シ運賃、船舶ノ賃賃料(期間傭船料ヲ含ム)又ハ其ノ製造若ハ賣買ノ價格ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ造船業者ニ對シ船舶ノ製造順位ノ變更、材料又ハ艤裝品ノ取得ノ調整其ノ他船舶ノ製造ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ運航業者又ハ船舶所有者ニ對シ船舶ノ施設又ハ乗組員ノ保護若ハ整備ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府ハ運航業者、船舶所有者又ハ造船業者ニ對シ其ノ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 政府ハ遠洋航路補助法ニ依ル補助航海ニ使用スル船舶ノ資格ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ船舶職員法ニ依リ船舶ニ乗組マシムベキ船舶職員ノ定員人又ハ其ノ免狀ノ種類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第七條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ船舶管理委員會ノ議ヲ經ベシ

船舶管理委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ日本船舶ヲ讓渡シ、貸渡シ(期間備船ヲ含ム)、擔保ニ供シ又ハ引渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ

處ス

一 第四條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ船舶ヲ取得シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ依リ附シタル條件ニ違反シタル者

三 第五條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

四 第六條又ハ第七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十六條 第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 運航業者、船舶所有者又ハ造船業者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十九條 本法又ハ本法ニ基ク命令ニ依リ運航業者、船舶所有者又ハ造船業者ニ

適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第二十一條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第二十二條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニアリテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ之ヲ適用ス

第二十三條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時船舶管理法施行期日ニ關スル件

(昭和十二年九月二十八日
勅令第五百五十一號)

臨時船舶管理法ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時船舶管理法施行規則

(昭和十二年九月二十九日
逕信省令第六十九號)

改正(昭和十四年十一月二十二日
逕信省令第五十六號)

第一條 臨時船舶管理法第三條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

一 船舶ノ種類及名稱

二 讓受ケ、借入レ（期間備船ヲ含ム）、抵當權ヲ取得シ又ハ引渡ヲ受ケントスル者ノ國籍、住所及氏名又ハ名稱

製造中ノ船舶ニ付テハ前項第一號ノ事項ハ船舶ノ種類及資格、機關ノ種類、計畫總噸數、計畫馬力、計畫速力並ニ竣工豫定年月日トス

第二條 臨時船舶管理法第四條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一 船舶ノ種類及名稱

二 國籍及所有者

三 總噸數

四 機關ノ種類及數

五 航海速力

六 進水年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

八 使用ノ目的

九 購入見込價格其ノ他ノ取得ノ條件

十 取得ノ豫定期日

十一 船舶ノ所在地

前項ノ許可ヲ受ケタル者船舶ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク其ノ契約書其ノ他船舶ノ取得ニ關スル書類ノ寫ヲ添ヘ取得年月日ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第三條 總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ臨時船舶管理法第三條及第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第四條 臨時船舶管理法第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル船舶ニ付テハ船舶輸入許可規則ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第五條 運航業者ハ定期航路ニ使用スル船舶ニ付往航又ハ復航毎ニ第一號書式ニ依ル定期船運航報告書ヲ當該往航又ハ復航ヲ終リタル後遲滯ナク遞信大臣ニ提出スベシ

第六條 運航業者ハ不定期航海ニ使用スル船舶ニ付第二號書式ニ依ル毎月ノ不定期船運航報告書二通ヲ翌月十日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ

第六條ノ二 前二條ノ規定ハ平水區域又ハ沿海區域ヲ航行區域トスル旅客船及總噸數五百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セズ

運航業者ハ總噸數二十噸以上五百噸未滿ノ船舶及舢舨ニ付第二號ノ二書式ニ依ル毎四半期間（自四月一日至六月三十日、自七月一日至九月三十日、自十月一日至十二月三十一日及自一月一日至三月三十一日）ノ沿岸船重要物資運送報告書（港内ニ於ケル舢舨ニ付テハ報告ヲ要セズ）二通ヲ各翌四半期ノ第一月末日迄ニ、第二號ノ三書式ニ依ル毎一年度間（自四月一日至翌年三月三十一日）ノ沿岸船運送報告書（港内ニ於ケル舢舨ニ付テハ港内舢舨運送報告書）二通ヲ各翌年度ノ四月末日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ
前項ノ重要物資ノ品名ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條ノ三 運航業者ハ前條第二項ニ規定スル船舶ニシテ其ノ運航ニ供スルモノ

ニ付毎年四月一日現在ニ於ケル左ノ事項ヲ記載シタル船腹報告書二通ヲ同月末日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ

一 汽船ニ付テハ所有船、裸傭船、期間傭船、扱船及委託船ノ別ニ船名、總噸數及重量噸數

二 帆船、補助機關付帆船、曳船及舢舨ニ付テハ總隻數、總噸數及總重量噸數又ハ總積噸數

第六條ノ四 運航業者ハ一月、四月、七月及十月ノ各一日現在ニ於ケル運送引受貨物ニシテ其ノ運送期間三月以上ノモノ又ハ其ノ數量一口五千噸以上ノモノニ付第二號ノ四書式ニ依ル運送引受報告書ヲ各同月ノ十日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ

第六條ノ五 第六條ノ二第二項、第六條ノ三及前條ノ規定ニ依ル報告書ノ提出ハ逕信大臣ノ告示スル運航業者ノ團體ニ於テ運航業者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得
第六條ノ六 運航業者ハ總噸數千噸以上ノ船舶ニ付第二號ノ五書式ニ依ル翌月中

ノ配船豫定報告書三通ヲ毎月二十五日迄ニ逕信大臣ニ提出スベシ
定期航路ニ使用スル船舶ニ付テハ發著豫定表ヲ以テ前項ノ配船豫定報告書ニ代
フルコトヲ得

第七條 運航業者定期航路ニ關スル運賃率表ヲ設定セントスルトキハ當該運賃率
表ヲ添ヘ豫メ逕信大臣ニ届出ヅベシ運賃率表ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第八條 運航業者船舶ヲ賃借(期間備船ヲ含ム)シタルトキ又ハ船舶ノ運航ノ委託
ヲ受ケタルトキハ契約成立後遲滯ナク其ノ契約書ノ寫ヲ添ヘ逕信大臣ニ之ヲ報
告スベシ

第八條ノ二 第五條、第六條、第六條ノ六又ハ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル
事項ニ付テハ海事資源調査規則第八條、第九條、第九條ノ二、第十四條若ハ第
十六條ノ二又ハ航路統制法施行規則第三條ノ規定ニ依ル報告又ハ届出ヲ爲シタ
ルモノト看做ス

第九條 船舶所有者其ノ所有スル船舶ヲ賣却シタルトキハ契約成立後遲滯ナク賣
買契約書ノ寫ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

第十條 前二條ノ規定ハ國庫ヨリ費用ヲ補助スル航路ニシテ逕信大臣ノ命令ニ依
ルモノニ使用スル船舶、平水區域又ハ沿海區域ヲ航行區域トスル旅客船及總噸
數五百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セズ

第七條ノ規定ハ國庫ヨリ費用ヲ補助スル航路ニシテ逕信大臣ノ命令ニ依ルモノ
平水區域又ハ沿海區域ヲ航行區域トスル旅客船ノミヲ使用スル航路及總噸數五
百噸未滿ノ船舶ノミヲ使用スル航路ニハ之ヲ適用セズ

第十一條 造船業者總噸數千噸以上ノ船舶ヲ製造セントスルトキハ契約ニ依ル場
合ニ在リテハ契約成立後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ製造計畫確定後遲滯ナク第
三號書式ニ依ル製造計畫報告書ヲ逕信大臣ニ提出スベシ既ニ提出シタル報告書
ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第十二條 造船業者總噸數千噸以上ノ船舶ニ付龍骨ヲ据付ケタルトキ又ハ進水ヲ
爲シタルトキハ第四號書式ニ依ル龍骨据付報告書又ハ進水報告書ヲ、竣工ヲ爲
シタルトキハ第五號書式ニ依ル竣工報告書ヲ遲滯ナク逕信大臣ニ提出スベシ

第十三條 總噸數千噸以上ノ船舶ノ製造又ハ入渠ノ設備ヲ有スル造船業者其ノ設備ニ付著シキ擴張又ハ變更ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ計畫ノ概要ヲ記載シタル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十四條 造船業者總噸數千噸以上ノ船舶ヲ製造スル場合ニ於テハ製造計畫確定後當該船舶ノ製造ニ要スル材料及艦裝品ノ毎月末ノ狀況ニ付翌月七日迄ニ第六號書式ニ依ル製造用材料艦裝品報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十五條 總噸數千噸以上ノ船舶ノ入渠ノ設備ヲ有スル造船業者ハ船舶ノ修繕ニ要スル鋼材ノ三月、六月、九月及十二月ノ各月末ニ於ケル狀況ニ付各翌月七日迄ニ第七號書式ニ依ル修繕用鋼材報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十六條 第六條ノ二、第六條ノ三及前五條ノ規定ニ依リ遞信大臣ニ提出スベキ報告書ハ當該船舶ノ製造又ハ入渠ノ設備ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スベシ

第十七條 運航業者又ハ船舶所有者ハ沿海區域、近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行ス

ル船舶（漁船ニ在リテハ第二種又ハ第三種ノ從業制限ヲ有スルモノ）ノ乗組員ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

一 乗組員ガ事變ノ爲危險ナル航海ニ從事スル場合ニ於ケル特別ナル手當及傷病又ハ死亡ニ對スル扶助

二 乗組員ガ兵役ニ召集セラレタル場合ニ於ケル給與

三 乗組員ノ休暇又ハ教習及休暇又ハ教習期間中ニ於ケル給與

前項ノ規定ニ依ル届出ハ運航業者又ハ船舶所有者ノ團體ニ於テ運航業者又ハ船舶所有者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル届出ハ所轄管海官廳ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第十八條 運航業者又ハ船舶所有者ハ船舶職員法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ船舶ニ乗組マシムベキ船舶職員ニシテ遞信大臣ノ告示ヲ以テ定ムル者ニ付管海官廳ノ許可ヲ受ケ他ノ種類ノ海技免狀ヲ有スル者又ハ相當ノ技能ヲ有スル者

ヲ以テ之ニ代ヘシムルコトヲ得

管海官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタ

ル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

一、船舶ノ種類、名稱、總噸數及速力並ニ機關ノ種類及公稱馬力

二、航行區域及就航航路（漁船ニ在リテハ從業制限及操業區域）

三、輕減セントスル船舶職員ノ名稱

四、輕減セントスル期間

五、第三號ノ船舶職員ニ代ヘシメントスル者ノ氏名及海技免狀ノ種類、海技免

狀ヲ有セザル者ナルトキハ其ノ者ノ乘船履歷

六、許可ヲ受ケントスル事由

附 則

第二十條 本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本令施行ノ際現ニ定期航路ノ運賃率表ヲ設定スル運航業者ハ遲滯ナ

ク之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ第十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 本令施行ノ際現ニ船舶ヲ賃借（期間傭船ヲ含ム）スル運航業者ハ遲

滯ナク其ノ契約書ノ寫ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第八條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第十一條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ製造計畫ノ確定シタル船舶ニ付

之ヲ準用ス

第二十四條 本令施行ノ際現ニ第十七條第一項各號ニ掲グル事項ニ付定アルトキ

ハ運航業者又ハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

（書式省略）

船舶管理委員會官制

（昭和十二年九月三十日
勅令第五百七十號）

第一條 船舶管理委員會ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ臨時船舶管理法第十三條ノ規定

ニ依リ其權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス
委員會ハ前項ノ外遞信大臣ノ諮問ニ應ジ臨時船舶管理法ノ施行ニ關スル重要事
項ヲ調査審議ス

委員會ハ臨時船舶管理法ノ施行ニ關スル事項ニ付遞信大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人及ビ委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ遞信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ専門委員ヲ置クコトヲ得遞信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ

命ズ

専門委員ハ會長ノ命ヲ承ケ専門ノ事項ヲ調査ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク遞信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 委員會ニ書記ヲ置ク遞信大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

航路統制法

(昭和十一年五月二十九日)
法律第三十五號

第一條 本法ニ於テ海運業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應ジ船舶ニ依リテ人又ハ物ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ハ帝國臣民又ハ帝國法人ガ遠洋區域、近海區域又ハ勅令ヲ以テ定ムル沿海區域ニ於テ營ム海運業ニ之ヲ適用ス

第三條 政府ハ海運業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ不當ナル競業ノ防止ニ關シ勸告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ勸告其ノ効ヲ奏セザル場合ニ於テ政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ航路ノ經營ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ航路ノ經營ノ禁止又ハ制限ハ實情ニ依リ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ニ依リ命ゼラレタル協定成ラザル場合ニ非ザレバ之ヲ爲ス

コトヲ得ズ

第四條 政府ハ運賃其ノ他ノ航路ノ經營條件ガ公益ニ反スト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其ノ經營條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 海運業者ハ命令ノ定ムル事項ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

第六條 行政官廳ハ第三條及第四條ノ規定ニ依ル措置ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 帝國臣民又ハ帝國法人ニ非ザル者ノ營ム海運業ニシテ其ノ資本ノ全部又ハ一部ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第八條 第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航路統制委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス
航路統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 第三條第二項ノ規定ニ依ル航路ノ經營ノ禁止若ハ制限ニ關スル命令又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ検査ヲ拒ミ、妨ダ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 海運業者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法又ハ本法ニ基ク命令ニ依リ海運業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

航路統制法施行令

(昭和十一年七月十日
勅令第百七十七號)

第一條 航路統制法第二條ノ沿海區域ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 内地ト朝鮮トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域
- 二 本州ト北海道又ハ樺太トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域
- 三 國庫ヨリ費用ヲ補助スル航路ノ存スル沿海區域

第二條 航路統制法第三條及第八條ノ規定ハ同法第七條ニ掲グル海運業ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

航路統制法施行規則

(昭和十一年七月十一日
逓信省令第二十三號)

第一條 海運業者ハ航路ヲ開始セントスルトキハ事前(成ルベク一ヶ月前迄)ニ左ノ各號ノ事項ヲ具シ逓信大臣ニ届出ヅベシ

一 航路

(イ) 起點港

(ロ) 寄港地

(ハ) 終點港

二 使用船舶

(イ) 名稱

(ロ) 總噸數及重量噸數

(ハ) 最快速力及航海速度

(ニ) 航海速度ニテ航行スル場合ニ於ケル一晝夜ノ燃料消費量

三 航海回数

海運業者ハ航路、使用船舶若ハ航海回数ヲ變更シ又ハ航路ヲ廢止セントスルトキハ事前(成ルベク一ヶ月前迄)ニ其ノ旨逓信大臣ニ届出ヅベシ

逓信大臣必要アリト認ムルトキハ前二項ニ掲グル事項以外ノモノニ付届出ヲ命ズルコトアルベシ

第二條 海運業者ハ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更若ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨逓信大臣ニ届出ヅベシ

第三條 海運業者ハ營業期ノ定メアルモノニ付テハ每營業期、其ノ定メナキモノニ付テハ毎年十二月末日ニ終ル一年間ニ付營業報告書ヲ添へ貨客運輸狀況ヲ附録書式ニ依リ當該期間終了後二月以内ニ逓信大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ニハ第一回ノ際ニ限り會社ニ在リテハ定款、組合ニ在リテハ組合契約ヲ添附スベシ

第四條 海運業者ハ其ノ業務ヲ開始シタルトキハ會社ニ在リテハ定款、組合ニ在

リテハ組合契約ヲ添へ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

一 資本金及拂込資本金

二 使用船舶ノ名稱及總噸數

海運業者ハ其ノ業務ヲ廢止シタルトキ又ハ定款若ハ組合契約ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨遞信大臣ニ届出ヅベシ

第一項ノ届出ヲ爲シタル海運業者ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第五條 前四條ノ規定ハ第三條第一項ノ規定ヲ除クノ外遞信大臣ノ命令ニ依ル航路ヲ營ム者ニ之ヲ適用セズ

第六條 本令ノ規定ニ依ル届出ハ海運業者ノ住所又ハ主タル營業所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前海事資源調査規則第十一條第二項ニ依ル手續ヲ爲シタルモノハ第三條

第二項ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ

(附録書式略)

航路統制委員會官制

(昭和十一年七月十日
勅令第百七十八號)

第一條 航路統制委員會ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ航路統制法第八條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外遞信大臣ノ諮問ニ應ジ航路ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ航路ノ統制ニ關スル事項ニ付遞信大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 航路統制法第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ニシテ軍事上又ハ外交上機密ヲ要スルモノニ付テハ委員會ノ議ニ付セザルコトヲ得

第三條 委員會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條 會長ハ遞信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク遞信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第七條 委員會ニ書記ヲ置ク遞信大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶輸入許可規則

(昭和八年五月二十四日
遞信省令第十八號)

第一條 船舶ヲ輸入又ハ移入セントスル者ハ當分ノ内遞信大臣ノ許可ヲ受クベシ
但シ解體ノ爲ニスルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ當該船舶ニ付左ニ掲グル事項ヲ記載シタ

ル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一 種類及名稱

二 國籍及所有者

三 總噸數

四 機關ノ種類

五 速力

六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

- 八 使用ノ目的
- 九 購入見込價格
- 十 輸入又ハ移入ノ豫定期日
- 十一 船舶ノ所在地
- 第三條 遞信大臣ハ第一條ノ許可ヲ爲スニ當リ條件ヲ附スルコトアルベシ
- 第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者船舶ヲ輸入又ハ移入シタルトキハ遲滯ナク其賣買契約書寫ヲ添ヘ輸入又ハ移入年月日ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第一條ノ許可ヲ受ケズシテ船舶ヲ輸入又ハ移入シタル者
 - 二 第二條ノ申請書ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタル者
 - 三 第三條ノ許可ノ條件ニ違背シタル者
 - 四 第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國家總動員法

(昭和十三年三月三十一日
法律第五十五號)

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員上必要ナル通信用物資
- 六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、装置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ従事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨

ズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞

働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ労働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ

必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得
政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業

務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得
第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シ
タル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利
者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受タルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル
事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制
協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取
消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其

ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トス
ル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定
款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員
タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若
ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ
對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラル

ベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ對シ試験研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ

又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム
總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金

ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者
- 二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者
四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタ

ル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ従事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ

處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ

之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項（軍機ニ關スルモノヲ除ク）ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲メ國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法施行期日ノ件

（昭和十三年五月三日勅令第三百十五號）

國家總動員法ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令

(昭和十四年十月十六日)
勅令第七百三號

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第十九條ノ規定ニ基キ價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料又ハ加工賃(以下價格等ト稱ス)ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 價格等ハ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱ス)ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 注文生産品ノ價格ニ付生産者ガ生産ニ著手シタルモノ
- 二 其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

三 運送賃又ハ加工賃ニ付運送人又ハ加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

四 保管料、損害保險料又ハ賃貸料ニ付支拂者ガ履行遲滯ニ在ルモノ

前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額(同ジ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額)、偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス

價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス

第三條 商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノノ閣令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員(構成員ガ組合其ノ他之ニ準ズルモノナル場合ハ其ノ構成員ヲモ含ム、第二項ノ場合亦同ジ)ニ付テハ其ノ額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地區内ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノニ付テモ前項ノ規定ニ依ル額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分アリタル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル額ノ變更アリタルトキハ前項ノ額ハ當該變更額ニ變更セラレタルモノトス

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ハ此等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際前條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條 行政官廳ハ指定期日ニ於ケル額（前條第一項若ハ第二項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ看做サルモノヲ除ク）ガ著シク不當ト認メラルルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ヲ引下グルコトヲ得但シ其ノ引下實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボ

スコトナシ

第五條 前三條ノ規定ハ有價證券ノ價格及賃貸料、土地及建物ノ價格其ノ他閣令ヲ以テ定ムル價格等ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六條 價格等ハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ他ノ法令ニ定ムル額又ハ他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ本令施行後ノ處分ハ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

前項ノ他ノ法令ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等（有價證券ノ價格及賃貸料ヲ除ク以下同ジ）ノ額ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ

許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第八條 支拂條件、引渡條件其ノ他ノ契約條件ノ變更（第六條ニ規定スル他ノ法令ニ依ルモノ及他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタルモノヲ除ク）ニシテ支拂者ニ不利益ト爲ルモノハ其ノ限度ニ於テ之ヲ價格等ノ額ノ引上ト看做ス

第九條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條、第六條又ハ第七條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ原價ニ關シ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ生産、販賣、運送、保管、賃貸、損害保險若ハ加工ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當

該官吏ヲシテ工場、事業場、販賣所、倉庫、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十二條 本令ハ左ニ掲グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

- 一 取引所又ハ日本米穀株式會社若ハ朝鮮米穀市場株式會社ノ開設スル米穀市場ニ於ケル賣買取引ノ價格
- 二 關東州、滿洲及支那以外ノ地ト本令施行地トノ間ニ於ケル輸出入取引ノ價格及兩地域間ニ於ケル運送ノ運送賃
- 三 其ノ他閣令ヲ以テ定ムルモノ

第十三條 本令ハ契約ノ當事者ニシテ營利ヲ目的トシテ當該契約ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ當該契約ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ屬スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 本令ノ施行ニ關スル主務大臣ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

- 一 農林水產物ノ生産者及其ノ組織スル法人ノ販賣スル場合ノ農林水產物ノ價格並ニ農林水產業專用物品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣
- 二 酒造稅法ノ酒類並ニ酒精及酒精含有飲料稅法ノ酒精及酒精含有飲料ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣及大藏大臣
- 三 醫藥品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣及厚生大臣
- 四 運送賃並ニ運送ニ直接關聯スル保管料及賃貸料ニ關スル事項ニ付テハ陸上運送ニ在リテハ鐵道大臣、水上運送及航空運送ニ在リテハ遞信大臣
- 五 田、畑、山林及原野ノ價格及賃貸料、家畜ノ賃貸料、農林水產物ノ保管ヲ目的トスル倉庫（倉庫營業者及商工業者ノ組織スル法人ノ營ム倉庫ヲ除ク）ノ保管料並ニ閣令ヲ以テ定ムル農林水產物及農林水產業專用物品ノ加工賃ニ

關スル事項ニ付テハ農林大臣

- 六 船舶ノ價格及賃貸料ニ關スル事項ニ付テハ遞信大臣但シ總噸數二十噸未滿ノ漁船ノ賣買價格及賃貸料ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣及遞信大臣
- 七 兵器、彈藥、艦船等ニシテ軍機保護上必要アルモノニ關スル第二條ニ規定スル事項ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣
- 八 前各號ノ場合ヲ除クノ外商工大臣
- 九 第六條ニ規定スル法令ニ於テ規定スル價格等ニ關スル事項ニ付テハ前各號ニ拘ラズ當該法令ニ於ケル主務大臣
- 第十六條 前條第七號ニ掲グル場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

附 則

第十七條 本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 第二條乃至第四條ノ規定ハ昭和十五年十月十九日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條 左ニ掲グル命令ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第二十四號綿糸販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第三十一號ステールプルフアイバー及ステールプルフアイバー

絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年臺灣總督府令第一百四十四號物品販賣價格取締規則

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則

左ニ掲グル規定ハ之ヲ削除ス

昭和十三年商工省令第四十五號皮革配給統制規則第九條及第十條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號（昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定

ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件）第八條及第九條

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條及第六條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條及第七條

前二項ニ掲グル命令及規定ハ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ

付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第二十條 左ニ掲グル規定ニ依ル農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ノ指定シタル日ニ於ケル販賣價格ハ之ヲ第二條ノ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年臺灣總督府令第一百四十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

第二十一條 左ニ掲グル規定ニ依リ農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、南洋廳長官、地方長官、朝鮮總督府道知事、臺灣總督府州知事若ハ廳長又ハ南洋廳支廳長ノ爲シタル販賣價格指定又ハ許可ハ第二條第一項但書

又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ各相當ノ行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定又ハ許可ト看做ス但シ閣令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則

第一條

昭和十三年商工省令第二十四號綿絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第三十一號ステールプルフアイバー及ステールプルフアイバー

絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第四十五號皮革配給統制規則第九條

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號（昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件）第八條

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條

昭和十三年臺灣總督府令第一百四十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

價格等統制令施行規則

（昭和十四年十月十九日
關令 第十三號）

第一條 價格等統制令（以下統制令ト稱ス）第二條第一項但書又ハ同令第七條第

一項但書ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

一 關東州、滿洲及支那以外ノ地ニ輸出セラルルコト明カナル物ヲ賣買スルト
キ

二 輸入價格ノ昂騰特ニ著シキ輸入品ヲ賣買スルトキ

三 其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

前項ノ許可ハ價格等ノ支拂者又ハ受領者ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ
足ル

第二條 前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ氏名又ハ名稱、住所又ハ主タル事務所ノ
所在地及業務ノ種類竝ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ主務大臣（主務
大臣特ニ定メタルトキハ地方長官）ニ提出スベシ

一 前條第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ物ノ名稱、品種、數量及輸出セラル
ルコトヲ明カナラシムル事項竝ニ價格等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテ
ハ買受先、豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、豫定販賣先及豫定販賣價格
其ノ他ノ豫定販賣條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ販賣先
及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

二 前條第一項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ輸入品ノ名稱、品種及數量竝ニ價格

等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ買受先及豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ買受先、豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

三 前條第一項第三號ノ場合ニ於テハ前二號ニ準ズル事項及已ムヲ得ザル事由ノ詳細

前項ノ申請書ニシテ主務大臣ニ提出スベキモノハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外地方長官ヲ經由スベシ

第三條 統制令第二條第三項ノ規定ニ依リ指定期日ニ於ケル價格ノ額ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 季節品ニ付テハ最近ノ季節ノ市場價格又ハ之ニ準ズルモノニ付一般物價ノ變動ヲ參酌シタルモノ

二 新製品ニ付テハ之ニ類似スル物ノ指定期日ニ於ケル市場價格又ハ之ニ準ズルモノニ付原價ノ差異ヲ參酌シタルモノ

三 前各號ニ掲グル物以外ノ物ニ付テハ指定期日ニ於ケル市場價格又ハ之ニ準ズルモノ

前項各號ニ掲グル價格ノ判定困難ナル場合ニ於テ受領者ノ申請アリタルトキハ地方長官（主務大臣特ニ定メタルトキハ主務大臣）又ハ主務大臣ノ指定スル法人若ハ團體其ノ額ノ指示ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ物以外ノモノノ價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料及加工賃ノ額ニ付之ヲ準用ス

第四條 統制令第三條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ハ左ニ掲グル區別ニヨリ主務大臣又ハ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一 數府縣又ハ全國ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ主務大臣

二 道府縣又ハ其ノ一部ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ地方長官

前項ニ掲グル組合其ノ他之ニ準ズルモノニシテ主務大臣ノ指定シタルモノニ付テハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ定ムル行政官廳ニ申請スベシ

第五條 前條ノ申請ヲ爲スニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二 構成員（統制令第三條第一項ノ構成員ヲ謂フ以下同ジ）タル資格及構成員ノ概數

三 統制令第二條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額及其ノ實施ノ日

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 定款又ハ規約ノ寫

二 統制令第二條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額ヲ定ムルヲ必要トスル事由及其ノ額ノ算定基礎ヲ明カニスル書面

三 前條ノ申請ヲ爲スベキ旨ノ決議書又ハ同意書ノ寫

第六條 統制令第二條第一項但書若ハ第七條第一項但書ノ許可又ハ同令第三條第

一項ノ認可ニハ制限又ハ條件ヲ附スルコトアルベシ

第七條 主務大臣又ハ地方長官統制令第三條第一項ノ認可ヲ爲シタトキハ左ノ事

項ヲ公示ス

一 組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二 構成員タル資格

三 統制令第二條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額及其ノ實施ノ日

四 認可ニ附シタル制限又ハ條件

第八條 統制令第三條第二項ノ處分ハ同條第一項ノ認可ヲ爲シタル主務大臣又ハ

地方長官處分ノ旨及前條各號ニ掲グル事項ヲ公示スルコトニヨリ之ヲ爲ス

第九條 統制令第四條ノ規定ニ依ル處分ハ主務大臣又ハ地方長官價格等ノ受領者

ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルニ依リ之ヲ爲ス

一 價格等ノ引下後ノ額

二 引下實施ノ日

第十條 統制令第二條乃至第四條ノ規定ハ左ニ掲グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

一 財團、營業及無體財產權ノ價格及賃貸料

二 書畫骨董ノ價格

三 鮮魚介類（冷凍漁介類及鰻ヲ除ク）、生蔬菜及生果實ノ價格

四 家畜ノ價格及賃貸料並ニ家禽及立木竹ノ價格

五 輸出品タル綿絲及輸出品ノ原料若ハ材料ニ用フル綿絲（關東州、滿洲及支那向ノモノヲ除ク）ノ價格

六 生絲（玉絲及野蠶絲ヲ除ク）及繭（玉繭及屑繭ヲ除ク）ノ價格

第十一條 統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ法令ヲ定ムルコト左ノ如シ

アルコール專賣法

阿片法

遠洋航路補助法

家畜保險法

瓦斯事業法

漁船保險法

軌道法

輕金屬製造事業法

工作機械製造事業法

航路統制法

航空法

航空機製造事業法

小運送業法

索道事業規則（昭和二年遞信省令第三十六號）

鹽專賣法

鹽賣捌規則

飼料配給統制法

重要肥料業統制法
森林火災國營保險法
人造石油製造事業法
自動車製造事業法
自動車交通事業法
石油業法
製鐵事業法
粗製樟腦樟腦油專賣法
倉庫業法
煙草專賣法
煙草賣捌規則
中央卸賣市場法
地方鐵道法

電力管理法
電氣事業法
電力調整令
鐵道營業法
鐵道運輸規程
農業保險法
農業倉庫業法
米穀統制法
米穀配給統制法
酪農業調整法
臨時肥料配給統制法
硫酸アンモニア増産及配給統制法
臨時船舶管理法

昭和十二年法律第九十二號（輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律）

第十二條 統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ主務大臣之ヲ爲スモノトス但シ主務大臣ニ於テ地方長官ガ額ノ指定ヲ爲スベキ旨ヲ定メタルモノニ付テハ地方長官額ノ指定ヲ爲スモノトス

第十三條 統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ告示ニ依リテ之ヲ爲ス但シ軍機保護上告示ヲ不適當トスルモノニ付テハ價格等ノ受領者ニ對スル通知ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 統制令第十一條第一項ノ行政官廳ハ主務大臣又ハ地方長官トス

同條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第十五條 統制令第十二條第三號ニ掲グル價格等ハ左ニ掲グルモノトス

一 私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ明治三十七年勅令第百九號第一條第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノガ同項ニ規定スル事由ニ因リ當該保稅工場ノ作業ニ使用スル物品ノ買入價格

二 金地金、金ノ合金、金ヲ主タル材料トスル物及産金法ノ含金鑛産物ノ價格

竝ニ金資金特別會計法ニ依リ金資金ヲ運用スル場合ノ物ノ價格

三 國營ノ鐵道、軌道及自動車竝ニ其ノ附帶ノ業務ニ關スル運送賃、賃貸料及保管料

四 統制令施行地以外ノ地相互間（關東州、滿洲及支那ノ各地相互間ヲ除ク）ニ於ケル運送ノ運送賃

五 統制令施行地以外ノ地へ支拂ヒ又ハ統制令施行地以外ノ地ヨリ受領スル保稅料（統制令施行地ト關東州、滿洲又ハ支那トノ間ノ運送ニ對スル貨物ノ保稅又ハ航海ニ對スル船舶ノ保稅ノ保稅料ヲ除ク）及統制令施行地以外ノ地（關東州、滿洲及支那ヲ除ク）相互間ノ運送ニ對スル貨物ノ保稅又ハ航海ニ對スル船舶ノ保稅ノ保稅料

六 再保稅料

七 日本船舶ニ非ザル船舶ノ賃貸料

第十六條 第二條第一項又ハ第五條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ハ各二通ヲ提出スベシ

第十七條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ價格等ノ支拂者若ハ受領者又ハ組合其ノ他之ニ準ズルモノヲ指定シ其ノ第二條第一項又ハ第五條ノ規定ニヨリ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ價格等ノ支拂者若ハ受領者又ハ組合其ノ他之ニ準ズルモノヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 統制令第十五條第五號ノ加工賃ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 米穀其ノ他ノ穀物ノ糶摺賃及乾燥賃
- 二 炭燒賃
- 三 生絲挽賃

四 肥料ノ加工賃

第十九條 本令ニ於テ主務大臣、主務大臣又ハ地方長官、地方長官トアルハ陸上運送賃竝ニ陸上運送ニ直接關聯スル保管料及賃貸料ニ關スル事項ニ付テハ第四條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外地方鐵道事業、軌道事業（人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク）及自動車運輸事業ニ在リテハ鐵道大臣、人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道事業ニ在リテハ起點所在地ヲ管轄スル地方長官、小運送業ニ在リテハ所管鐵道局長、其ノ他ノ陸上運送事業ニ在リテハ主タル事業地ヲ管轄スル地方長官（東京府ニ於テハ警視總監但シ索道事業ニ在リテハ東京府知事及警視總監）トス但シ第十四條ノ場合ニ在リテハ地方鐵道事業、軌道事業（人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク）及自動車運輸事業ヲ除クノ外鐵道大臣及小運送業ニ在リテハ當該鐵道局長、其ノ他ノ陸上運送事業ニ在リテハ當該地方長官（東京府ニ於テハ人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道事業ヲ除クノ外警視總監但シ索道事業ニ在リテハ東京府知事及警視總監）トス

本令ニ於テ主務大臣、主務大臣又ハ地方長官、地方長官トアルハ船舶ノ價格、
賃貸料及水上運送賃ニ關スル事項ニ付テハ總噸數百噸以上ノ汽船以外ノ船舶ノ
賣買價格、賃貸料及運送賃竝ニ長サ五十米未滿ノ船舶ノ製造價格ニ在リテハ所
轄遞信局長、其ノ他ニ在リテハ遞信大臣トス但シ專ラ湖川ヲ航行スル船舶及總
噸數二十噸未滿ノ船舶（舢舨、曳船及總噸數五噸以上ノ運送船ヲ除ク）ノ賣買
價格、賃貸料及運送賃竝ニ總噸數五噸未滿ノ船舶ノ製造價格ニ在リテハ地方長
官（東京府ニ於テハ運送賃ニ在リテハ東京府知事及警視總監）トス
本令ニ於テ地方長官トアルハ醫藥品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ東京府ニ於テ
ハ東京府知事及警視總監トス

附 則

本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（別記様式省略）

臨時資金調整法

（昭和十二年九月十日
法律第八十六號）

改正（昭和十四年四月二十二日
法律第八十六號）

第一條 本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ
使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、産業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北
海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬ス
ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、
引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ
受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以
下之ヲ證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サント
スルトキ亦同ジ

第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募

集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條 命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

- 一 第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ
- 二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 金融機關ヨリノ借入金

二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三 本法ニ依リ設立又ハ資本増加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金

四 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ従事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第六條 日本興業銀行ハ十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依

ラザルコトヲ得

日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ額面金額十億圓ヲ限り其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條 金資金ハ金資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第八條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第九條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

臨時資金審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金五億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

第十四條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年内ニ毎年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ百五十倍以内ノ割増金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割増金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條、第五條、第六條、第七條第一項及第八條並ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券ニ之ヲ準用ス

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル

所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ

應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者

三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタル者

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ

法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スル

ノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職

ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ第十四條及第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

附 則 (昭和十四年四月二十二日法律第八十六號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法ノ一部施行期日ノ件

(昭和十二年九月十四日
勅令第四百九十二號)

臨時資金調整法第十一條ノ規定ハ昭和十二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法ノ一部施行期日ノ件

(昭和十二年九月二十五日
勅令第五百二十六號)

臨時資金調整法中未ダ施行セザル規定ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行令

(昭和十二年九月二十五日
勅令第五百二十七號)

改正(昭和十三年八月十五日勅令第五百九十號
昭和十四年四月二十二日勅令第二百二十四號)

第一條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸

付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ互ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ニ五萬圓以上トアルハ左ニ掲グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル資金ノ貸付ニ付テハ三萬圓以上トス

一 化粧品、化粧用具、喫煙用具、身邊用細貨類、毛皮製品、羽毛製品若ハ羽毛ヲ用ヒタル製品、皮革製品、玩具、室内遊戯具、樂器、樂器部分品若ハ附屬品、室内裝飾用品、照明器具、家具、致醉飲料、清涼飲料、調味料、菓子又ハ飴ノ製造用ノ設備

二 映畫製作用ノ設備

三 物品販賣用ノ設備

四 理容店用、浴場用、旅館用、料理店用又ハ貸席用ノ設備

五 興行用ノ設備

六 社交用、娛樂用又ハ遊興用ノ設備

第二條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

- 一 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付ヲ爲ストキ
- 二 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

行政官廳前項ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前二條ノ主務大臣ニ協議スベシ

第四條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社
- 二 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社
- 三 目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ掲グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ハ左ニ掲グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

二 資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更

二 資本増加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本増加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條 臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ掲グル事項ニ付行政官廳ノ認可許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條ノ二 臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ハ五萬圓トス但シ第一條第二項ニ掲グル

事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス

第六條ノ三 臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受クルコトヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區

二 當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス者

三 第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本増加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

四 第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ

第七條 臨時資金調整法第二條、第四條又ハ第四條ノ二ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條 臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條 左ニ掲グル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ増加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

- 一 航空機製造事業
- 二 金屬工機械製造事業
- 三 兵器及兵器部分品製造事業

四 鋼船製造事業

五 製鐵事業

六 產金事業

七 石炭鑛業

八 石油鑛業、石油精製業及石油輸入業

第十條 臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

第十一條 第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、産業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第六條ノ二ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

大藏大臣銀行、信託會社又ハ證券引受業者ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲
サントスルトキハ商工大臣ニ、商工大臣保險會社ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許
可ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

附 則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年八月十五日勅令第五百九十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十四年四月二十二日勅令第二百二十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行細則

(昭和十二年九月二十五日
大藏、農林、商工省令)

改正 (昭和十二年十月十三日大藏、農林、商工省令
昭和十三年八月十五日大藏、農林、商工省令
昭和十四年四月二十二日大藏、農林、商工省令)

第一條 臨時資金調整法第三條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融

機關又ハ證券引受業者ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ
事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベ
シ

第二條

金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケ
ントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ
支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱
- 二 借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
- 三 貸付ノ種類、時期及金額 (數口ニ互ルトキハ貸付總額並ニ各口ノ貸付ノ種
類、時期及金額)

四 貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件

五 借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫

及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二 借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條 金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有

價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可

申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

三 應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類

二 社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條

金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有

價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ

記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及商號又ハ名稱

二 有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

三 引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額

四 引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

五 有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

六 有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

七 資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ

之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類